

天皇陛下のご退位と皇太子殿下のご即位を迎える元号の改元は国民の関心と期待は昭和、平成の次なる新元号のタイトル？多くの国民の方々は四月一日のご発表を心待ちにしております。東京オリンピックの準備も順調に進捗されており、全国を巡る聖火リレーのルートも決定し新国立競技場の建設も十一月には完成する由そして多くの外国のアスリートの方々をお迎えしその開催は次なる時代を担う未来からの大使である子供たちも私たち大人も含めて大きな夢を抱かしてくれます。そのスポーツを始めとする国際的にも宇宙科学の分野でもまた、人口頭脳と言わ

皆様が熟知をされて居りますが諸活動の中でも全国の善行者の一一番の樂しみは今までの奉仕活動に劳いのご褒美の長寿善行者の東宮御所での皇太子殿下同妃殿下とのご接見の機会の榮を賜る事業です。新しい皇室と従前の東宮御所の皇嗣様とのご接見の機会の継続は是非とも念願するものです。

こうした、昭和・平成・新元号への時代の変遷に伴い私たち善行会は安全・安心の街作りに三千五百名の会員がそれぞれの地域において新時代に即応した善行精神の普及活動に一層の活動の展開をしていきましょう。それには各支部の会員の皆様がお互いに享有する情報や悩み事を交換

会を願うものの、本会の目的に沿う新会員はどもしてある程度の年配の方たちがメンバーとして協力をいただいていることが現実です。作今、社会問題と合わせ会員の平均年齢はどうしても上がつて居り、世代交代の波も待つてくれません。三人寄れば文殊の知恵ともいわれます。各地域の皆さま方が叡智を寄せ合って、建設的なご意見を集めし合い、それぞれの支部と本部の連携の下、直面する諸問題を次世代に向けてより良い方向に運行会の更なる飛躍を信じて切磋琢磨し素晴らしい善行会を次世代に引き継いでいきましょう。

善行表彰を受けて  
東京都練馬区 川井 淳子

用均等法」が施行され練馬区内消防署においても女性団員の一期生に団をとの奨めで入団をし右も左もわからない私に署員始め団長他皆様のご指導のもと、広報活動高齢者宅訪問、火災現場での交通整理等に努めまた、部長として後輩の指導など退団までの有章義な二十五年でした。現在は、町会長として練馬区大泉小学校の災害時避難拠点運営連絡会長を務め女性ならではの視点で運営を行つております。また、現在練馬区の「福祉のまちづくり」委員もしております人生百年時代に入り、高齢化がますます進み大変な時代です。

障害者、高齢者、健常者が皆安心して街歩きができ、だれでもどこで声を掛け合える街にならばとの思いで委員活動を行っています。人生にいきがいるには、何か一つ趣味など持つことも大切だと思います。私は、日本の伝統の分栽を「染花・創作盆栽」として創作活動を五十年余り行って参りました。現在、生涯学習センター等で高齢者、障害者、また、小・中学校・職場と出前教室での指導を行っています。これからも、地域の安心安全で明るい住みよ町になります。よう努力して参ります。最後に日本善行会のますのご発展を祈ります。御礼の挨拶といったことをしました。ありがとうございました。

善行表彰を受けて  
福岡県北九州市 山上 克

この度、平成三十年  
秋季善行表彰を賜り大  
光栄な事と感激してお  
ます。

表彰式は、十一月十  
日に行われ、この日の  
治神宮は、暑くも寒く  
ない好天に恵まれてい  
ました。受賞に対して少  
の緊張は有りましたが  
嬉しさの方が勝り、早  
に会場入りしました。

私は青少年指導への貢献で表彰です。活動の内容としては、警察委嘱少年補導員として夜パトロールと自治区や区で行う各種行事で少年補導活動を主とて行い、非行少年への直ち支援活動等にも加しています。また、区の青少年育成会にも属し、地域ぐるみで青年に対する有害なものを排除し、将来へ向けて少年の健全なる成長を日々活動を行っています。



一般社団法人日本善行会 副会長 相澤克也

# 平成から新元号と善行会

A vertical black and white illustration featuring stylized Japanese characters (日月) and cherry blossoms (桜) on a background of horizontal lines.

一般社団法人  
日本善行会  
〒100-0006  
東京都千代田区有楽町  
2-10-1 東京交通会館内  
TEL (03) 3212-6996  
FAX (03) 3212-6998

毎月1日発行  
編集発行人 相澤 克也

善行は、社会を  
照らすとしましょう

ありました。昭和四十四年、近隣の町から転居し、団地、田畠の真ん中に新居を構えました。

静岡県浜松市 善行表彰を受けて  
長谷 勝司

五人の私たちを無事卒業させて上げ、あまり恩返しもできないまま生き斐ある一生を終えられた。私はこの恩を忘はず、ある奉仕団体に属し、主に知的障害児童や学園生徒を対象にに

青森県弘前支部

## 支部だより